

事例 9 各分野相互の有機的な関連を図る事例

- 学年 第3学年
- 主な領域 (公民的分野) D 私たちと国際社会の諸課題 (1) 世界平和と人類の福祉の増大
- 事例のポイント
 - ①「協調」「持続可能性」といった新たな概念を形成し、さらにその概念を働かせて、どのように「持続可能な社会づくり」に参画していくのかを考察、構想し、意思決定まで内容を深められるよう、単元構成や問いの立て方を工夫する。
 - ②世界で起こっている問題に関心を持ち、それを「自分ごと」とし、主体的にその解決を図ろうとする態度を養えるように学習活動を工夫する。
 - ③7年間の社会科学習の集大成として知識を再構成できるよう、地理的分野、歴史的分野、ここまでの公民的分野の単元(場合によっては特別活動や総合的な学習の時間なども含む)で習得・活用してきた知識を有機的に関連付ける。

ICTを活用した主な学習場面

- ・知識の習得の場面
- ・生徒の考えを共有する場面
- ・レポートを記述する場面

ICT活用の利点

- ①デジタルコンテンツ(各種動画)を活用することで、問題の現状を可視化し、具体的なイメージをもたせることができる。
- ②共同編集ソフトを活用し、各自の考えや振り返りを共有することによって、多様な考えに触れ、思考を深めることができる。
- ③文章によるレポートを書く際、文書作成ソフトだと推敲しやすい。また書字に課題がある生徒も文書作成ソフトを用いることで負担を軽減することができる。

1 小单元名 「世界平和と人類の福祉の増大」(9時間)

2 小单元について(略)

3 小单元の目標と評価規準

(1) 目標

- ・世界平和の実現と人類の福祉の増大のためには、国際協調の観点から、国家間の相互の主権の尊重と協力、各国民の相互理解と協力及び国際連合をはじめとする国際機構などの役割が大切であることを理解する。その際、領土(領海、領空を含む)、国家主権、国際連合の働きなどを基本的な事項について理解する。また、地球環境、資源・エネルギー、貧困などの課題の解決のために経済的、技術的な協力などが大切であることを理解する。
- ・日本国憲法の平和主義を基に、我が国の安全と防衛、国際貢献を含む国際社会における我が国の役割について多面的・多角的に考察、構想し、表現する。
- ・世界平和と人類の福祉の増大について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとする。

(2) 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・世界平和の実現と人類の福祉の増大のためには、国際協調の観点から、国家間の相互の主権の尊重と協力、各国民の相互理解と協力及び国際連合をはじめとする国際機構などの役割が大切であることを理解する。その際、領土(領海、領空を含む)、国家主権、国際連合の働きなどを基本的な事項について理解している。 ・地球環境、資源・エネルギー、貧困などの課題の解決のために経済的、技術的な協力などが大切であることを理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本国憲法の平和主義を基に、我が国の安全と防衛、国際貢献を含む国際社会における我が国の役割について多面的・多角的に考察、構想し、表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・世界平和と人類の福祉の増大について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。

4 小単元の指導計画・評価計画（9時間）

●「学習改善につなげる評価」 ○「評価に用いる評価」

時	学習活動等	評価の観点			評価規準（評価方法）
		知	思	態	
第1時（本時）	<p>課題 世界ではどのような現実が広がっているのだろうか</p> <ul style="list-style-type: none"> 資料「ハンガーマップ」から読み取れることをまとめる。 なぜアフリカ大陸を中心に餓死する人がたくさんいるのか、その理由を、既習事項を活用して予想する。 資料「シャンパングラスモデル」から、「富の偏り」が原因の根幹にあることを読み取り、その実態をシミュレーション的に体験する。 「南北問題」「南南問題」について整理し、単元を貫く問いを設定し、具体的に追究したいことをまとめる。 				<p>[主] 世界で生じている飢餓の問題について自身の生活との関連の中で捉え直し、その他国際社会で見られる諸課題に関心を持ち、その解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。（振り返りシート）</p>
	<p>単元を貫く問い 「国際協力」とは何だろうか～私たちには何ができるのだろうか～</p>				
第2時	<p>課題 「どのように」国際協力を行えばよいのだろうか</p> <p>事例のポイント① 生徒が重要な概念を確実に自己形成していけるように、単元構成や「問い」の立て方を工夫する。教科書で扱われている順とは異なるが、全体を通して学習内容が欠如していることのないように気をつける。</p> <ul style="list-style-type: none"> 途上国に対する個人的な募金活動に対する賛否の意見交換を行い、資金や物資を送る支援のメリット・デメリットについて考える。 国際協力には、「緊急援助」と「開発援助」の2つの考え方があること、また、ある程度安定した地域に対する資金・物資の支援にはデメリットがあることを理解する。 				<p>[思・判・表] 資金や物資を送る支援のメリット・デメリットについて多面的・多角的に考察し、表現している。（観察）</p> <p>[知・技] 「緊急援助」と「開発援助」の考え方を理解している。（ワークシート）</p>
	<p>課題 「誰（どんな組織）が」国際協力を行っているのだろうか①</p> <ul style="list-style-type: none"> 貧困が様々な因果関係で連鎖していることを体験的につかみ、連鎖を食い止める手段について考察する。 実際に途上国の支援における主体となっている組織や団体について、既習事項や日常生活で見聞きしたことをもとにして整理する。 <p>事例のポイント③ 地理的分野・歴史的分野・公民的分野の経済単元などで習得した知識を活用させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 国連の各機関、各国政府が行う ODA、NGO、企業が CSR の一貫として行う活動、宗教団体の支援などの存在を知る。 				<p>[主] 貧困問題の解決を主体的に追究しようとしている。（観察）</p> <p>[知・技] 国際連合をはじめとする国際機構などの役割を理解している。（ワークシート）</p>

事例のポイント②
世界的な課題を「自分ごと」化できるような教材の選定、学習活動の工夫をする。

●
編 P 50 指導計画作成の留意事項(8)(9)

● ● ●
編 P 50 指導計画作成の留意事項(2)(4)(8)

● ● ●
編 P 50 指導計画作成の留意事項(2)(4)(9)

第4時	<p>課題 「誰(どんな組織)が」国際協力を行っているのだろうか②</p> <ul style="list-style-type: none"> 組織図や写真などの資料をもとに、国連の概要(歴史、役割、仕組み、専門機関の働きなど)について整理する。 	●			<p>[知・技] 領土、国家主権、国際連合の働きなどの基本的な事項について理解している。(ワークシート)</p>
第5時	<p>課題 国際協力の一環として行われている自衛隊の海外派遣にはどんな課題があるのだろうか</p> <ul style="list-style-type: none"> 自衛隊の歴史について復習する。 NHK スペシャル「<u>変貌する PKO 現場からの報告</u>」(2017年5月28日放送)の一部を視聴し、自衛隊のPKO参加に伴う課題について整理する。 <p>ICT活用の利点① デジタルコンテンツを活用することで、問題の現状を可視化し、具体的なイメージをもたせることができる。</p> <p>編P50 指導計画作成の留意事項(9)(10)</p>	●			<p>[思・判・表] 日本国憲法の平和主義を基に、我が国の安全と防衛、国際貢献を含む国際社会における我が国の役割について多面的・多角的に考察、構想し、表現している。(ワークシート)</p>
第6時	<p>課題 国際協力として「何を(どんな分野で)」行えばよいのだろうか</p> <ul style="list-style-type: none"> 国連の組織図から、国際協力で求められている分野として、医療、教育、政治、経済、環境などがあることを整理する。 地球環境問題を振り返り、現在どのような取組が行われ、またどのような課題があるのか整理する。 <p>編P50 指導計画作成の留意事項(3)(4)</p>	●			<p>[知・技] 地球環境にはどのような問題があるか、また課題解決のために経済的、技術的な協力などが大切であることを理解している。(ワークシート)</p>
第7時	<p>課題 「なぜ」、国際協力を行う必要があるのだろうか</p> <p>事例のポイント③ 地理的分野・歴史的分野・公民的分野の憲法单元などで習得した知識を活用させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 国際協力を行う目的について、<u>地理的分野、歴史的分野、ここまでの公民的分野の单元で学習してきたことや、新たな資料から読み取れることをKJ法を用いて整理する。</u> <p>ICT活用の利点② 共同編集ソフトを活用し、タブレット上で付箋に書き出し、グループで分類する活動を行った。他のグループの成果物を瞬時に共有できるため、多様な考えに触れながら、自分の考えを整理し、深めることができる。</p> <p>編P50 指導計画作成の留意事項(2)(6)</p>	●	●		<p>[思・判・表] 国際協力を行う目的を多面的・多角的に考察、表現している。(観察)</p> <p>[知・技] 地球環境、資源・エネルギー、貧困などの課題の解決のために経済的、技術的な協力などが大切であることを理解している。(ワークシート)</p>

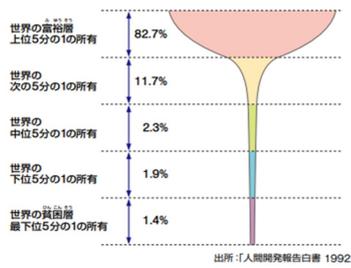
第 8 時	課題 「国際協力」とは何だろうか ～レポートにまとめよう～				
	<p>事例のポイント① 習得した知識を活用し、単元を貫く問いに対する答えを記述させることで、概念を形成させることができたか図る。</p> <p>・既習事項を生かして「国際協力」とは何かについて、5W1Hを踏まえた<u>レポートにまとめる</u>。</p> <p>ICT活用の利点③ 文章の推敲がしやすい。書字に課題がある生徒もワープロソフトを用いることで負担を軽減することができる。</p> <p>・日本が果たすべき役割について考察、構想したことを意見交換し、考えをまとめる。</p> <p style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px; display: inline-block;">編 P 50 指導計画作成の留意事項(4)(6)</p>	○		<p>[知・技] 課題の解決のために経済的、技術的な協力などが大切であることを理解している。(レポート)</p>	
	<p>単元を貫く問いの解(例) 国際協力とは、地球環境や人権、経済格差、安全保障、平和構築など地球規模の課題の解決を目指して全世界で取り組むことである。 その際、国家間で相互の主権や文化を尊重しあったり、持続可能な開発を行ったりしていくことが重要である。 国連や各国政府、NGOや企業などがその主体であり、経済的・技術的な協力を行っている。しかし、大事なことは「地球市民」の一員として、草の根レベルで私たち自身が関心を持ち続け、活動に関わろうとしていくことである。</p>				
第 9 時	課題 地球市民の一員としてできることはなんだろうか ～私は何をすべきだろうか、何をしたいこうか～				
	<p>・国際社会の諸課題の解決に向けて、<u>将来的に自分がやってみたいこと、そのために何を学び続けたいか、さらに今すぐにでもできること、やるべきことをまとめる</u>。</p> <p>事例のポイント② 世界の問題を「自分ごと」化したのち、その解決に主体的に関わろうとする態度を育みたい。社会参画に向けた意思決定を図る課題に取り組ませる。</p> <p style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px; display: inline-block;">編 P 50 指導計画作成の留意事項(4)(11)</p>	○	<p>[主] 世界平和と人類の福祉の増大について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。(ワークシート)</p>		

5 本時の学習指導（1／9時間）

(1) 目標

- 世界で生じている飢餓の問題について自身の生活との関連の中で捉え直し、その他国際社会で見られる諸課題に関心を持ち、その解決を視野に主体的に社会に関わろうとする。

(2) 展開

学習活動等	・指導上の留意点	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">観点</div> 具体の評価規準
1 各国の飢餓率を示す主題図を、タイトルを伏せた状態で分析し、 <u>何の資料か予想</u> する。 ・予想される生徒の反応 貧困率、識字率、就学率など 2 資料のタイトルが「ハンガーマップ」であることと、飢餓の実状を示す数値を知る。 ・『世界がもし100人の村だったら』より、「村人のうち20人が栄養が十分ではなく、1人は死にそうなほどです」 3 本時の課題をつかむ。	・資料「ハンガーマップ」を提示する。 <div style="border: 2px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> 「ハンガーマップ」は https://hungermap.wfp.org/ 参照 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 事例のポイント③ 地理ノートを振り返り、「世界の諸地域」単元で学習した知識を復習させ、根拠として活用させる。 </div>	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">課題</div> 世界ではどのような現実が広がっているのだろう ～単元を貫く問いを設定しよう～		
4 「ハンガーマップ」から、問題が深刻な地域を読み取る。 ・アフリカ、東南・南アジア、中南米 5 <u>飢餓の原因について考察</u> する。 ・予想される生徒の反応 食料不足、収入不足、自然環境、紛争、産業の未発達など 6 資料「シャンパングラスモデル」を読み取る。 ・本質的な原因に「富の偏り」がある。 7 「富の偏り」を疑似体験し、 <u>飢餓の問題に先進国が大きく関わっていることを実感</u> する。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 事例のポイント③ 「自然環境」と答えた生徒には「例えばどんな条件だろう？」と、「産業の未発達」と答えた生徒には「具体的にはどんな産業の実態だっただろう？」、「紛争」と答えた生徒には「なぜ紛争が絶えないのだろう？」などと、地理的分野や歴史的分野で学習したことを想起させるような補助発問をしていく。 </div> ・資料「シャンパングラスモデル」を提示する。 <div style="text-align: center; margin: 10px 0;">  <p style="font-size: small;">世界の富裕層 上位5分の1の所有 82.7% 次の5分の1の所有 11.7% 世界の 中位5分の1の所有 2.3% 世界の 下位5分の1の所有 1.9% 世界の貧困層 最下位5分の1の所有 1.4%</p> <p style="font-size: x-small;">出所「人間開発報告書 1992」</p> </div> ・生徒が疑似体験できるようなキッドを事前に作成しておく。生徒を「豊かさ」によって5つのグループに分け、100個の太巻きイラストを不平等に分配する。	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 事例のポイント② 「世界で生じている飢餓や餓死の問題が遠い世界の出来事で、自分とは関係のないこと」「飢餓の人たちはかわいそう」といった感想で終わらないようにする。先進国で「豊かで」「便利に」暮らす私たちの生活が要因の1つであることを疑似体験することで「自分ごと」化させ、課題や問題の解決に主体的に取り組めるようにする。 </div>	<div style="text-align: center; margin-top: 10px;">  </div>	

<p>8 「南北問題」「南南問題」について整理し、理解を深め、本時の学習のまとめをする。</p>	<p style="text-align: center;">まとめ(例)</p> <p>世界では、アフリカ大陸を中心に、深刻な飢餓の問題が生じている国や地域が多い。そしてその要因は、単純な食料不足ではなく、先進国と途上国間の「富の偏り」にあると言える。こうした経済格差から生まれる問題を南北問題という。また近年では、経済的な開発が進んだ新興国と、そうではない後発開発途上国との間の格差が進む南南問題なども起こっている。</p>
<p>9 本時の学習を振り返り、今後追究したいことをまとめ、発表する。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p style="text-align: center;">ICT活用の利点②</p> <p>共同編集ソフトを活用し、振り返りを共有することによって、多様な考えに触れることができるようにする。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">主</p> <p>世界で生じている飢餓の問題について自身の生活との関連の中で捉え直し、その他国際社会で見られる諸課題に関心を持ち、その解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。(振り返りシート)</p> </div>
<p>10 単元を貫く問いを設定する。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>単元を貫く問い 国際協力とは何だろう ～私たちには何ができるのだろうか～</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>事例のポイント①</p> <p>単元を通して常に意識して追究し、最終的には新たな現代社会の見方・考え方(概念)を、各生徒が形成していけるような問いとしたい。さらに、その形成された概念を働かせて、パフォーマンス課題「私たちには何ができるのか」について考察・構想できるようにしたい。</p> </div>

6 板書の写真

学習課題 人ま最後の「社会科」最終単元を通じ追究する問いを設定しよう～世界には、どのような現実が広がっているのか？～

① **ハンガリー** 飢餓(栄養不足)の割合
→ 飢餓: 25000人/日

割合が高い地域
アフリカ(中), 東南アジア, 中南米, 南アジア

割合が低い地域
ヨーロッパ, 北米, オセアニア, 東アジア

＜原因として考えられる点＞

② 紛争, 自然環境, 植民地支配の歴史, モノカルチャー経済, 産業の未発達, 貧困, 食料不足

→ より本質的・根本的なのは「富の偏り」

一定の食料が少

先進工業国: 北側に多い

↓ 不平等な格差

後発途上国: 南側に多い

(開発)

新興国(経済的に成長した=BRICSなど)

南北問題

南南問題

国際協力とは何だろう?～いつどこで誰が何をして自分たちに何ができるのだろうか?～

7 事例のポイントと考察

(1) 事例のポイントについて

- ① 「協調」「持続可能性」といった新たな概念を形成し、さらにその概念を働かせてどのように「持続可能な社会づくり」に参画していくのかを考察、構想し、意思決定まで内容を深められるよう、単元構成や問いの立て方を工夫する。

公民的分野の学習においては、「現代社会の見方・考え方」を働かせた学習指導の展開が求められている。

「現代社会の見方・考え方」は、現代社会の諸課題の解決に向けて、政治、経済及び国際社会などに関する様々な事象や課題を多様な視点（概念や理論など）に着目して捉えたり、課題解決に向けて有用な概念や理論などに関連付けて考えたりするなどの「視点や方法（考え方）」として整理されている。

なお学習指導要領解説には、「政治や経済などに関する基本的な概念や考え方が、中学生の段階で習得すべきものとして示されているので、(中略)生徒が十分理解し納得して習得することができるよう指導内容の構成を工夫して指導すること」「政治、法、経済などに関する基本的な概念や考え方を具体的な事例を通して学び、(中略)生徒が今までもっていた(中略)概念的な枠組みの中に新たに組み入れることにより、自らの現代社会の見方・考え方を鍛えることが大切」とされている。

また、知識の習得の場面では、「高度で抽象的な内容や細かな事柄を網羅的に扱い、用語や制度についての解説に陥らないよう留意する必要がある」ともされている。例えば、憲法の各条文にある個別具体の権利などの名称（語句）を一問一答的に答えられたとしても、「法の支配」「立憲主義」（「憲法は国家が守るべき法である」といった憲法の見方・考え方（概念）をつかんでいなかったとしたら、本質的な理解に至っていないと言える。

そこで本単元では、「(国際)協調」「持続可能性」といった基本的な概念や考え方を、生徒が十分に理解し習得できるように、単元構成や問いの立て方を工夫した。

導入において、シミュレーションの手法を取り入れた体験的な学習を行い、世界で生じる問題を自分と関係のあることとして認識させた上で、単元を貫く問いを「『国際協力』とは何だろうか ～私たちには何ができるのだろうか～」と設定した。

その後の学習では、5W1Hをもとに「誰（どんな組織）が、どのように、何のために、どんなことをしているのか」という問いを提示して、課題を追究・解決させた。これは、小学校社会科における「社会的事象の見方・考え方」の中の着目の視点の1つである「事象や人々の相互関係の視点」や追究の方法の1つである「地域の人々や国民の生活と関連づける」とも関連していると言える。

そうして身に付けた「現代社会の見方・考え方」を働かせて、単元のまとめとして日本の役割を考察・構想させるとともに、「自らがどのように関わっていくか」について社会参画に関する意思決定までさせた。

- ② 世界で起こっている問題に関心を持ち、それを「自分ごと」とし、主体的にその解決を図ろうとする態度を養えるように学習活動を工夫する。

「国際協力＝途上国の支援」ではないが、途上国に焦点をあてると、生徒は「貧しくてかわいそう」という短絡的かつ一面的なイメージを持っている。また結局はどこか「遠くのこと」のお話で、「自分とは関係のない世界の出来事」と認識してしまう生徒も少なくない。そして、その支援というと、「募金をしよう」という結論に留まり、深みのある学習に至らないことが多かった。

そのような問題意識から、世界の課題を「自分ごと」として捉えられるよう、以下のようないわゆる「参加型学習」の手法を参考にした学習活動を行った。

第1時では、飢餓の原因が「食料の不足」にあるのではなく、「富の偏り」にあることを体験的に理解できるように、次のような活動を用意した。100枚の太巻き絵を用意し、クラスを5つのグループ（最も豊かな20%の人々・2番目に豊かな20%の人々・中間の20%の人々・2番目に貧しい20%の人々・最も貧しい20%の人々）に分け、「最も豊か」とされるグループには、83個の太巻き絵を渡した。以下、「豊かさ」ごとに12個、2個、2個、1個と数が減っていく。最貧グループは、6人で1つの太巻きを分け合う状況になる、すなわ

ち他国の貧困と日本をはじめとする先進国の生活は大きく関連していることを実感させた(資料A/開発教育協会『新・ワークショップ版 世界がもし100人の村だったら』参照)。

第2時では、「収入が少ない」「食料が買えない」「学校に行けない」「病気になりやすい」「読み書きができない」「十分な栄養が摂れない」などと書かれた12枚のカードを円状に並び替え、貧困が様々な問題と関連していることを確認するという「貧困の連鎖」という取組を行った。また、その連鎖を断ち切るための案を出し合ったり、実際にどんな組織がどのような活動を行っているか整理したりした。(資料B/JICA教材作成実行委員会編2019『国際理解教育実践事例集』参照)。

第3時では、途上国に対する個人的な募金活動に対する賛否の意見交換を行い、お金やモノを送る支援のメリット・デメリットについて考えた。この活動を通して、紛争や災害などの際にモノや資金を送る「緊急援助」や、ある程度安定した地域では自立を促すための技術支援を行う「開発援助」の考え方があること、また、ある程度安定した地域でただモノや資金を送ることにはデメリットもあることを気づかせた(資料C/開発教育協会2006『「援助」する前に考えよう』参照)。

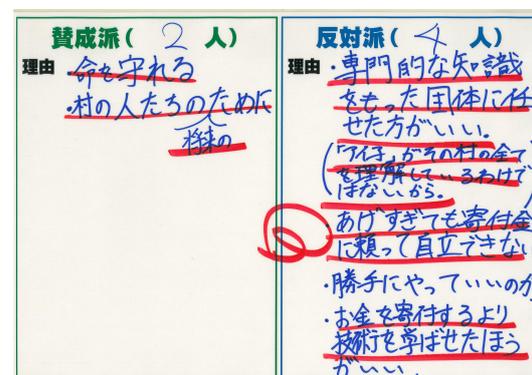
第7時では、「なぜ国際協力(途上国の支援)をするのか」について、それまでの学習で習得した知識を活用したり、見方・考え方を働かせたり、新たな資料を読み取ったりしてわかったことを付箋に書き出し、ブレインストーミング(KJ法)を用いてグループで意見を分類、集約した。例えば、「日本の資源・エネルギーや食料の自給率が低いから諸外国との友好関係が重要」や「日本も戦後間もない頃国際社会の支援を受けていたし、戦後賠償の一環としての側面もある」などといった、地理的分野・歴史的分野で習得した知識を十分活用させたい(資料D)。

なお、資料B~Dは、アナログでのまとめの一例であるが、ICTを用いたまとめも考えられる。

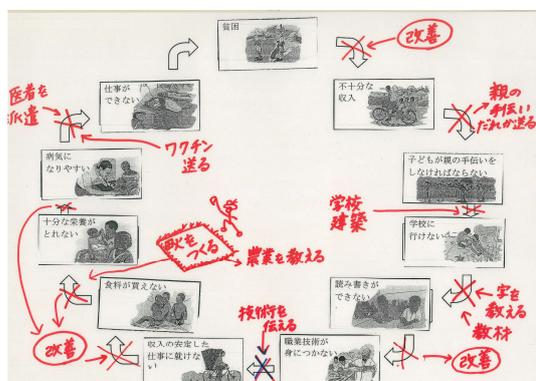
資料A



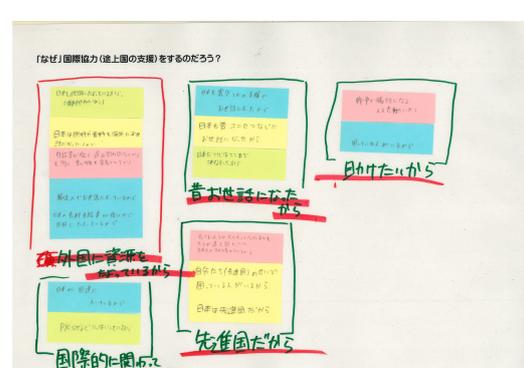
資料B



資料C



資料D



近年、「オーセンティックな学び」という言葉を耳にすることが多いが、これは「現実社会に存在する、本物の実践に可能な限り近づけた学び」である。具体的には、「知識の建築：知識を覚えるのではなく、自分の考えを構築するために活用する」「学問に基づく探究：学問的な探究、他者との議論を用いる」「学校を超えた価値：現実社会で意味があり、価値のある学

習を行う」などが挙げられている(フレッド・M・ニューマン著、渡部竜也・堀田諭訳 2017『真正の学び／学力—質の高い知をめぐる学校再建』春風社参照)。

本単元は、そもそも学習内容が「オーセンティック」であるし、学習活動を参加型にすることで、さらにその効果を高め、生徒の知的好奇心を刺激することができると思う。

③ 7年間の社会科学習の集大成として知識を再構成できるよう、地理的分野、歴史的分野、ここまでの公的分野の単元(場合によっては特別活動や総合的な学習の時間なども含む)で習得・活用してきた知識を有機的に関連付ける。

地理的分野・歴史的分野・公的分野のそれまでの学習で習得した知識を、現在世界で見られる諸課題を解決するために活用していくことは、生徒に、それらを学ぶ意義を実感させることにもつながる。

社会科学習の究極の目標は、「よりよい社会の形成者」を育成することである。また中学校社会科が「 π 型」の構造を採っていることを鑑みても、地理的分野・歴史的分野で習得した知識を「よりよい社会の形成」に活用していくことこそ、重要なこととなる。教員がそうした視点を踏まえて、3年間の学習内容を見通して、知識を扱っていく必要があると思われる。

以下に、本単元に向けて各分野の各単元の学習において触れておきたい(「種を蒔いておきたい」)学習内容を示す。

地理的分野

単元	本単元で活用・関連させたい(「種を蒔いておきたい」)学習内容
世界と日本の地域構成	ア(ア) (イ)で「主な国々の名称と位置」「領域の範囲」を学習する際、 <ul style="list-style-type: none"> ・国家を構成する要素(領土、国民、主権) ・主権の及ぶ範囲(領土、領海、領空) ・アフリカ州などでは、国境が宗主国によって直線的に引かれたがゆえに、民族間のバランスが悪いことがあること ・現在の各地域における領土問題の実際 などを詳しく扱っておく。
世界の様々な地域	(1)ア(イ)で「人々の生活や環境の多様性」を学習する際、 <ul style="list-style-type: none"> ・「ハラールフード」が重視される背景 (2)ア(ア)で「地球的課題」を、イで「地域内の結び付き」を学習する際、 <ul style="list-style-type: none"> ・SDGsの目的とそれが求められる背景 ・ASEANやEUが組織される目的 ・アフリカで「児童労働」や「貧困」が生じやすいこと、あるいはその解決に向けてNGOが活躍していること ・北アメリカやオセアニアで見られる人種差別 ・南アメリカで行われている環境破壊や持続可能な開発の例 などを詳しく扱っておく。
日本の様々な地域	(2)ア(イ)で「日本の資源・エネルギーと産業に関する特色」を学習する際、 <ul style="list-style-type: none"> ・日本の食料自給率やエネルギー自給率の低さ、輸入依存度の高さ ・各発電方法のメリットおよびデメリット などを詳しく扱っておく。

歴史的分野

単元	本単元で活用・関連させたい(「種を蒔いておきたい」)学習内容
近代の日本と世界	ア(ア)で「欧米における近代社会の成立」を学習する際、 <ul style="list-style-type: none"> ・欧米諸国による植民地支配の実態 などを詳しく扱っておく。
現代の日本と世界	ア(ア)で「日本の民主化」「冷戦下の国際社会」を、(イ)で「日本の経済の発展」「グローバル化する世界」を学習する際、 <ul style="list-style-type: none"> ・日本は、戦後(1949年～1964年)、ユニセフの支援を受けている。給食用の粉ミルクや、薬、服の原料など、子供たちの生活や成長を支えてもらっていたこと ・サンフランシスコ平和条約締結の際、カンボジアやラオスをはじめとする多くの国が日本に対する賠償金請求権を放棄したこと(日本はそれに代えて経済協力や技術支援などを行っている) ・日本の経済成長を支えた東海道新幹線は、世界銀行からの支援を受けて建

	設されたこと ・ 冷戦終結後、EU に代表される国際協調が進む一方で、旧ユーゴスラビアやルワンダなどでの内戦(紛争)が後を絶たないこと ・ 自衛隊が誕生した背景や湾岸戦争後に自衛隊がPKOに参加できるようになったこと などを詳しく扱っておく。
--	--

公民的分野

単元	本単元で活用・関連させたい(「種を蒔いておきたい」)学習内容
私たちと現代社会	(1)ア(ア)で「グローバル化」を、(イ)で「文化」を学習する際、 ・ 日本政府がODAの一環として「青年海外協力隊(現在のJICA海外協力隊)」を派遣していること ・ 多様な文化を尊重し合うことの意義 などを詳しく扱っておく。
私たちと経済	(1)イ(ア)で「企業の経済活動における役割と責任」を学習する際、 ・ 企業が社会的責任(CSR)の一環として、海外で難民支援や地雷撤去、環境保全の活動を行っていることや、フェアトレード商品を取り扱っていること などを詳しく扱っておく。
私たちと政治	(1)ア(ア)で「基本的人権」を、(ウ)で「平和主義」を学習する際、 ・ 生存権が保障されているがゆえに「ストリートチルドレン」と呼ばれる子供が日本ではほぼいないと言えること ・ 教育を受ける権利が保障されているがゆえに日本の「識字率」はほぼ100%であること ・ 9条(平和主義)の存在によって、日本では紛争や内戦、少年兵といった問題が戦後生じていないこと などを詳しく扱っておく。

なお、社会科の授業以外でも、総合的な学習の時間でSDGsを扱ったり、道徳の時間に国際協力に関わってこられた方の考えに触れたり、特別活動(生徒会活動)で難民支援の活動に協力したり、キャリア教育の一環としてNGOや国際協力に関わってこられた方に講演していただくことなども考えられる。

まさに、教科・領域横断的であり、教育活動の核になりうる分野であると言える。

(2) 実践に当たっての留意点

本単元は、7年間の社会科教育の集大成となる「D(2)よりよい社会を目指して」の単元の直前にあたり、そこでの探究に向けた重要な内容を扱うことになっている。

しかし、本単元を扱う時期は第3学年の年度末であり、進路選択に向けた私立受験や公立受験直前の時期でもある。最低限の「語句」だけを扱うような単元構成や授業とならないよう、ぜひ3年間の指導計画に則した授業実施に努めて、十分な時間を確保したい。そのためにも、学習指導要領や教科書構成の全体像を事前にしっかりとつかみ、各単元で理解あるいは考察させるべき「(個別具体の語句ではなく)本質的な学習内容」を精査する必要がある。

その方策として、各分野・単元で重複するような学習内容は、2回目、3回目に扱う際、再び「教え込む」というよりは、習得した知識を活用するような場面を設定することが求められる。

また、教科書見開き1ページの内容をそのままの順番で扱うことにとらわれず、単元(内容のまとまり)全体で、生徒が主体的に課題を追究しながら、理解を深められるような工夫も求められる。次の授業が待ち遠しくなるような知的好奇心や興味・関心を持たせ、単元の導入で提示した課題を追究・解決するためのパズルのピースを集めるように知識を吸収させたい。その際は、生徒の実態(小学校での既習事項や、全国・県の学力・学習状況調査の結果など)に応じなければならない。

さらに、思考ツールを用いたまとめの活動や、レポートによる文章記述などは、一朝一夕で身に付くものでもない。学年・発達段階に応じて徐々に難易度を上げ、生徒の資質・能力を高めていくことも求められる。